

# DLab Partners Workshop 2022



**Tokyo Institute of Technology**

Laboratory for DEsign of Social Innovation in Global Networks

**Public version**

# About DLab

未来社会 DESIGN 機構（DLab）は、「人々が望む未来社会とは何か」を、社会の一員として考え、デザインすることを目的として2018年9月に設置されました。

DLabでは、30～50年先の「ありたい未来」を描き、その未来を実現するために必要となる科学・技術や政策などとあわせて社会に提示します。

そして、東工大だけでなく社会のみなさんと共に実際の研究活動や政策立案などを行い、描いた未来の実現を目指します。

## DLabパートナーズ

会員が所属や立場を超えて自由に未来へのアイデアを出しあう

「未来を考えるオープンな場」として2020年度から発足し、

今年度は7月にキックオフミーティングを開催しました。

この場で得られた全ての情報・成果は、共有・公開を原則とします。

未来を考える取組を行っている組織間の交流・共創の場として、

また情報交換の場としてご活用いただくことができます。

—— 昨年度から 3社減 1社増の9機関でスタートしました ——

SONY

AsahiKASEI



INSPIRE

ULVAC



JSR株式会社



日鉄興和不動産

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

Kaneka

&



Tokyo Tech

# 2022年度の活動 Summary

## ● Part 1 (9月、12月)

### パートナーズ共創ワークショップ

### 「TRANSCHALLENGE社会とは」その意義と実現に向けて

DLabで提言したひとつの未来社会像であるTRANSCHALLENGE社会を題材に、「ありたい」未来社会を解像度高く描いてみたいと思います。また、その描いた未来社会からのバックキャスティングを通じて必要な科学技術や社会制度など様々な要素を見出し、未来社会の実現に向けて何が必要かをパートナーズの皆さんと共に考えていくワークショップを計画しています。

## ● Part 2 (10月～11月)

### 未来社会デザイン入門とのコラボ ～学生とともに考える未来～

前年度と同様に学部1年生向け「未来社会デザイン入門」講座とのコラボを行います。今年是对面授業再開を受け、2050年1月1日発行の未来新聞を学生が制作します。7月に行ったパートナーズ会員と講師の先生方との意見交換も踏まえ、各社の未来戦略を学生にプレゼンし、未来新聞へのインプット情報にしてもらいます。また、学生のグループワークにパートナーズ会員がアドバイザーとして加わり、学生からの質問や、アイデアへのフィードバックも行います。

# ● Workshop Part1

Day1: Sep. 28<sup>th</sup> Online Group Work w/Zoom & Miro

Day2: Dec. 6<sup>th</sup> @DLab Co-working Space, Ookayama Campus

## パートナーズ共創WS

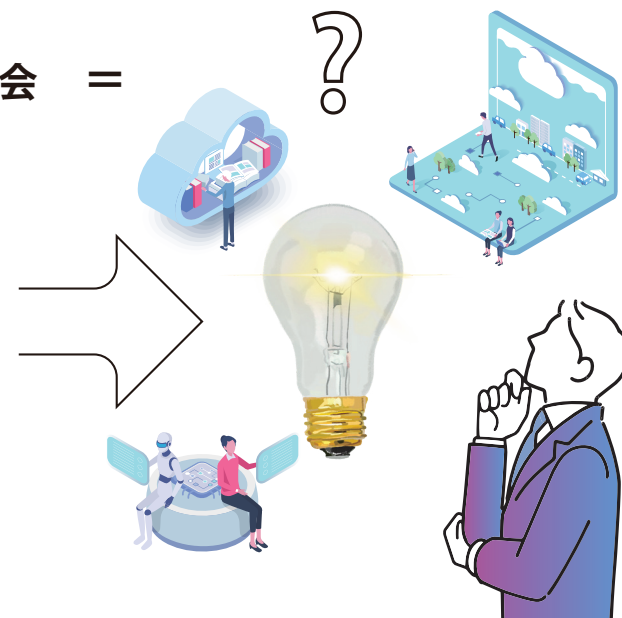
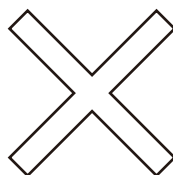
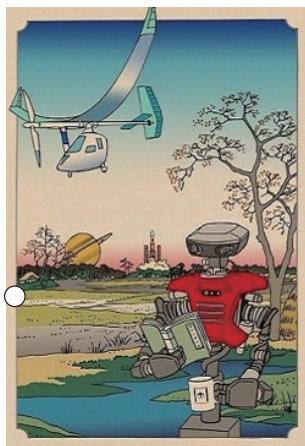
Day 1

— ありたい「未来の大学」を考える

未来の大学

× TRANSCHALLENGE 社会 =

30年後



Day 2

— その実現のために皆さんの叡智を集めると  
何ができるかを考える

# Day1 | 3つの「未来の大学」像（1）

**WORK#3 ありたい未来を描く** ～TRANSCHALLENGE社会が実現したら、テーマで掲げた未来は具体的にどうなっているでしょうか～

- ① 場所・時間・主人公を固定させて、具体的にどんな未来の大学がやってくるか、ストーリー（具体的な場面）をつくってみる
- ② 今は実現していなくて、未来（TRANSCHALLENGE社会）では実現していることは何か？違いを挙げてみる

**テーマ** 新しいことを始める前にその準備・試行をできる場所。かつ倫理・法規制が保たれている場所としての大学

**Where** 企業（職場）と  
大学のリアル空間

**When** 企業で働いている40代

**Who** 家族があり、  
今後の人生に悩んでいる人

## ありたい未来の場面

どういう思い・願いを抱いているか

- 現業でやっていることとは違うアイデアを思いついた。
- だが会社が認めてくれない。企画を出したが部長にはねられた。退職しようにも家族ブロック。

何をしている

- アイデア具体化するために必要な専門性を持っている人、同じことをやりたい、補完し合う仲間に会えた。
- 危険なこと、インフラがないとできないことがすぐにできた。
- 発想が膨らみ、やってみた実感、学びを得た。  
1+1=2でなく、3や4になった。
- 2足の草鞋をはくスタートを切る。

## TRANSCHALLENGEなこと（現在との違いは何ですか）

現在ではそんなことを実行する時間や体力がもてない。  
未来ではできるようになっている。

- 寝なくてよい身体を得ている
- 3秒で履修でき学習コストがかからない
- BMIでピッチ資料自動生成。PPT作らなくてよい
- パーマンのコピーロボット実用化

誰でもできるわけではない？

耐えられるゴーストを持っているかが入試とか。

# Day1 | 3つの「未来の大学」像（2）

WORK#3 ありたい未来を描く ～TRANSCHALLENGE社会が実現したら、テーマで掲げた未来は具体的にどうなっているでしょうか～

- ① 場所・時間・主人公を固定させて、具体的にどんな未来の大学がやってくるか、ストーリー（具体的な場面）をつくってみる
- ② 今は実現していなくて、未来（TRANSCHALLENGE社会）では実現していることは何か？違いを挙げてみる

テーマ 世代間共生を実現し、人間的成長の持続を促すことができる大学

Where 田舎

When 2035年の

Who おじいちゃんと孫

### ありたい未来の場面

田舎のおじいちゃんと孫がともに大学に通っている。

データアナリシスなど多様な学問を学んでいる。

国が保有している機材をレンタルしている。

足りない機材は国連のオープンソースへアクセスできる。

おじいちゃんがノーベル受賞。

知識の着脱等ができるのであれば、学問はオープンソースでインストールできる。それ以外の部分は大学に所属し、研究開発する。

基本的な知識はおじいちゃんから孫まで得られる。

多様な世代の人と意見を交わし、交流するコミュニティ⇒人間性の成長へ。

### TRANSCHALLENGEなこと （現在との違いは何ですか）

OSはインストール、大学はアプリケーション開発のような（今までとそんなに変わらない？大学というより教育機関？）。

世代間の共生（子供から老人まで）によって多様な発想が生まれる。

## Day1 | 3つの「未来の大学」像（3）

WORK#3 ありたい未来を描く ～TRANSCHALLENGE社会が実現したら、テーマで掲げた未来は具体的にどうなっているでしょうか～

- ① 場所・時間・主人公を固定させて、具体的にどんな未来の大学がやってくるか、ストーリー（具体的な場面）をつくってみる
- ② 今は実現していなくて、未来（TRANSCHALLENGE社会）では実現していることは何か？違いを挙げてみる

### テーマ 専門性が無限に広がるパーソナライズ化された大学

Where どこでも

When 会社帰り・休日

Who 好奇心旺盛な会社員  
窓際で危機感を感じる会社員

#### ありたい未来の場面

昔、大学には、なぜか、工学部や理学部といった組織があった。  
しかし、今は10～∞才が集い、しかも皆が生徒で先生はいない。  
一人ひとりのシラバスがあり、無限に広がる思いもよらない発想  
が産まれる知の創発の場になった。  
窓際社員のAさんは、この大学に通うことにより、無限の個性・  
専門性を持った集団のアイデア共創による窓際脱出のみらず、ま  
さかの独立を果たした。

#### TRANSCHALLENGEなこと (現在との違いは何ですか)

- 学部・学科という枠組みが無くなった。  
(シラバスは個人ごとで違う)
- 年齢も時間も全く関係なく学べる場に。
- 教員と学生という関係すらない。  
互いに尊重し学び合う仲間に。
- 専門性とは特定の学術領域では無く、  
無限の、個人が持つパーソナリティへと  
定義が変わった。

# Day2 | 「未来の大学」を描く

Day1の3つの未来像をひとつの形に集約し、その実現を考える

## DLabパートナーズで考える「未来の大学」

持続的な人間的成長 — 最後に議論します



### 3. 専門性の民主化

専門性を磨く

専門性を補う

一人ひとりのシラバス

専門性のパーソナライズ化



### 1. フラットなコミュニティ

世代間共生

皆が生徒・先生

Open/Share

いつでも

どこでも

### 2. 快適で安全な場

倫理・法整備

安全な場・環境

準備・試行できる場

## 1. フラットなコミュニティ

誰もが（世代、人種、社会的属性など）

いつでも（時間を問わず）

どこでも（キャンパスでも地球の裏側でも）

知的な交流を通じて学ぶ・探究することができる

そこでの知はOpen/Shareであり先生は存在せず皆が生徒

## 2. 快適で安全な場

何か新しい試みを安心して取り組むことができる

・実験や実証できる設備、場が揃っている

・安全に行うことができる（身体的に法的に倫理的に）

## 3. 専門性の民主化

専門性はもはや研究者の特権ではなく、

誰もが自分の専門性を磨き、

他の人の専門性と協力しあい、

自己実現を追求する場となる

## Day2 | 「未来の大学」を描く



#1 : Day1の「未来の大学」提言を踏まえ、事前課題として  
各社が1～3に対しどこにどう貢献できるかの提案を共有し  
気付いたことや質問などをその場で付箋に記入

# Workshop Part1

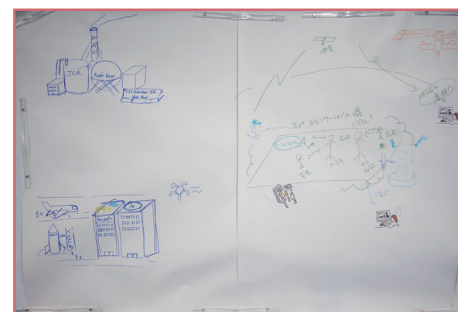
1 今日はこのCanvasに  
Campusをつくります



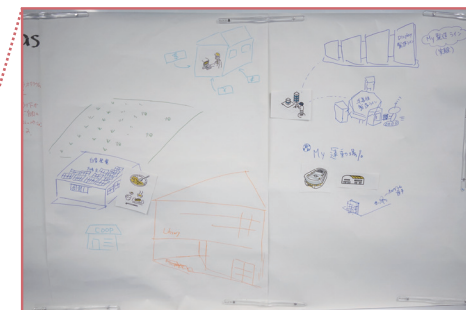
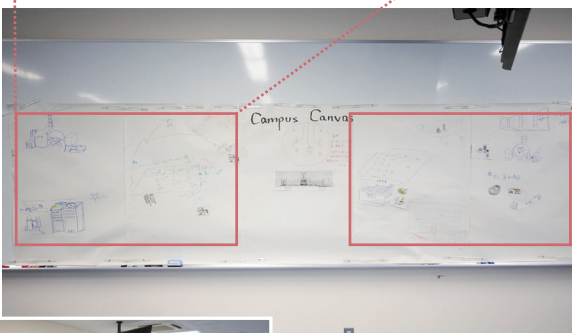
2 まず、各社の提案  
を聞きます



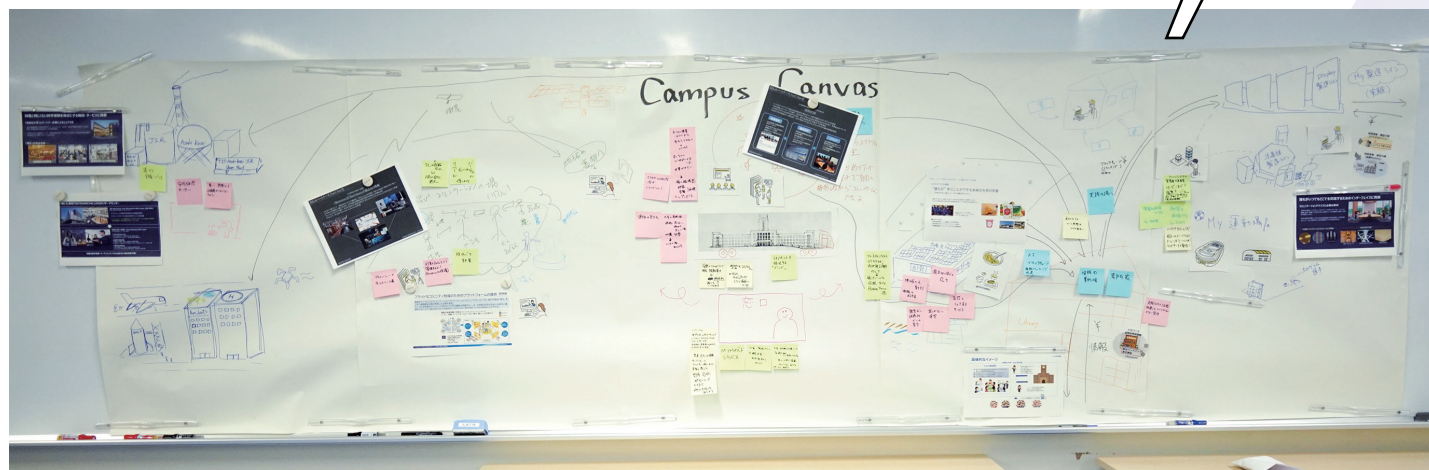
3 3グループに分かれて  
Campusをつくっていきます



4 なにやいろいろ  
建ってきました

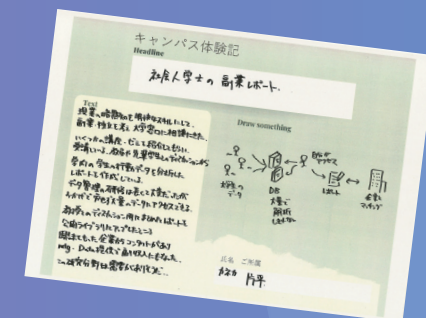
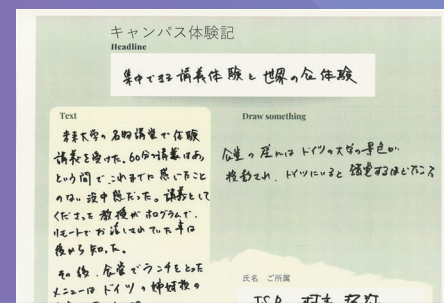
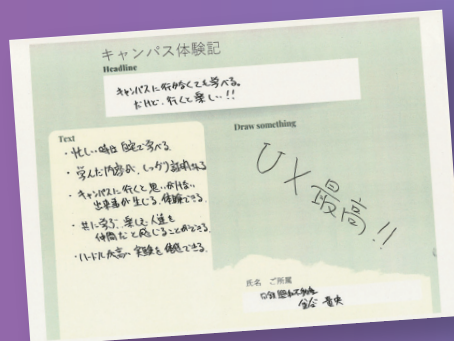
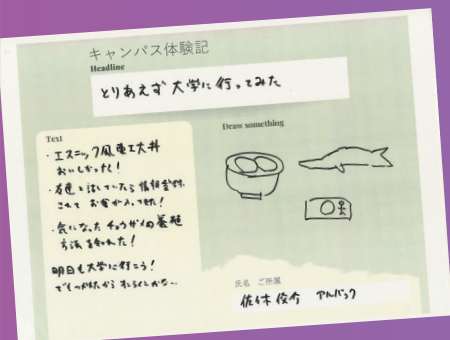
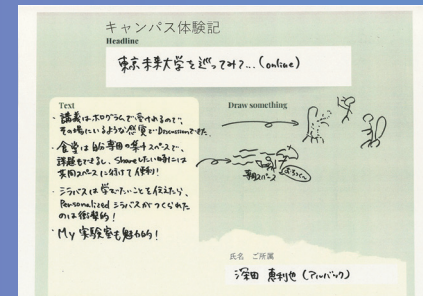
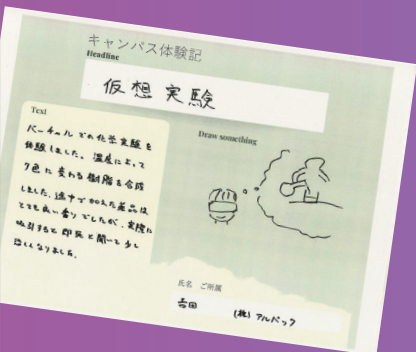
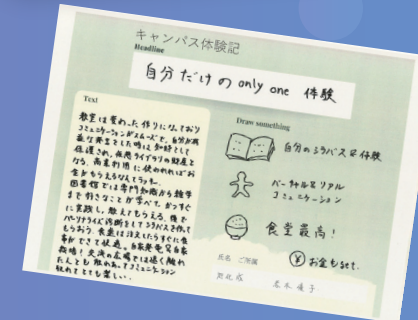
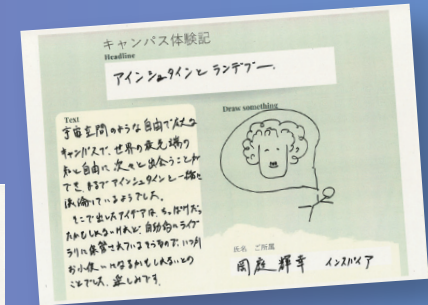
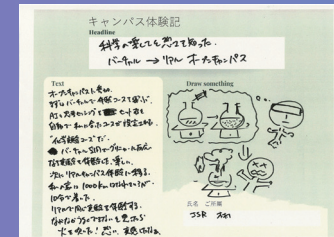
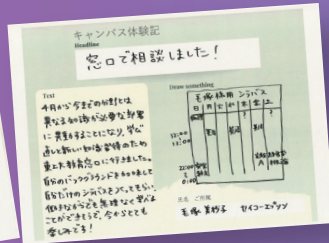
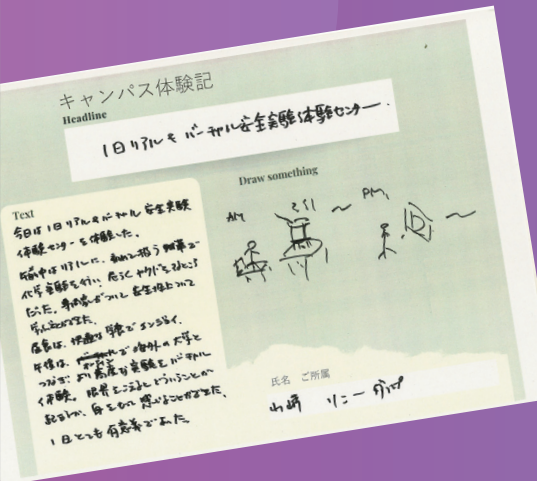


5 完成です





## #5:Canvas Tour (体験記)



# ● Workshop Part2

## DLabコラボ企画 Introduction to the Design of Future Society

### DLabパートナーズ

- ソニーグループ株式会社
- 旭化成株式会社
- マツダ株式会社
- 株式会社インスパイア
- 株式会社アルバック
- JSR株式会社
- 日鉄興和不動産株式会社
- セイコーエプソン株式会社
- 株式会社カネカ

(入会順) 2022年度パートナーズ企業9社



### 2022年度 教養特論 未来社会デザイン入門



柳瀬 博一 教授  
メディア論



治部 れんげ 准教授  
ジェンダー論・経営学

リベラルアーツ研究教育院

# 2050年の「望ましい未来の社会」を考える

## ～ 未来社会DESIGN × SDGs × ジェンダー × パートナース企業の考える未来 ～

2022年度3Q 教養特論「未来社会デザイン入門」全7回 2022年10月3日-11月28日 毎週月曜日13:45-15:25

| 講座  | 日時    | 概要                                                                                      | 受講学生                                             | パートナーズ会員                                                                                                                                      |
|-----|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 10/3  | 1 こうなるかもしれない未来 may be<br>2 こうなるべき未来 should be<br>3 こうしたい未来 want to be<br>について現代史を踏まえて概観 | 未来予測データの収集<br>グループワーク                            | 各グループにオブザーバーとして参加                                                                                                                             |
| 第2回 | 10/17 | SHOULD BE:こうすべき未来：<br>SDGsを基に未来像研究                                                      | SDGs事前調査をグループで共有                                 | 聴講                                                                                                                                            |
| 第3回 | 10/24 | ビジネスと未来戦略（1）<br>企業ゲストによるトーク<br>～各社代表によるショートプレゼン<br>（企業が考える未来やSDGs、<br>CSRの取組紹介）～        | 事前に調べた各社の未来戦略と<br>プレゼン内容についてグループで対話              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルバック、JSR、日鉄興和不動産、<br/>セイコーエプソンによる10分間のプレゼン</li> <li>・会員は各グループに入り、学生からの質問、<br/>意見に答える</li> </ul>      |
| 第4回 | 11/7  | ビジネスと未来戦略（2）<br>企業ゲストによるトーク                                                             | 同上                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソニーグループ、旭化成、インスパイア、カネカ、<br/>マツダ(ビデオ)による10分間のプレゼン</li> <li>・会員は各グループに入り、学生からの質問、<br/>意見に答える</li> </ul> |
| 第5回 | 11/14 | 未来新聞つくろう！                                                                               | 新しいグループで担当SDGsの番号を決め、<br>次回のプレゼンに向けて、未来新聞の制作開始   | 聴講（質問があれば対応）                                                                                                                                  |
| 第6回 | 11/21 | グループ発表                                                                                  | 壁新聞を貼り出し、グループ単位にショートプレゼン                         | 壁新聞や発表に対し、会員から最後にコメント                                                                                                                         |
| 第7回 | 11/28 | グループ発表<br>講義全体の振り返り                                                                     | グループ入れ替えを行い、自分のグループの壁新聞<br>を互いに説明。最後に全員が30秒でコメント | 聴講＆会員から最後にコメント                                                                                                                                |

